

情報化計画のマスタープランである「次なる茨木のためのICTビジョン」を平成30年2月に策定し、豊かさの実感できる魅力ある次なる茨木の実現に向けて、“ゼロをプラス”に導く積極的なICT戦略を推進してきました。そして、新型コロナウイルス感染症対策を契機とし、デジタル技術を徹底的に活用した取組のさらなる加速が求められています。

1 茨木市DX推進に関する宣言 (令和2年10月)

本市では、DX (デジタル・トランスフォーメーション) を今まで以上に加速させ、With・Afterコロナを見据えた「次なる茨木」への歩みを進めるとし、その推進にあたっては、本市ICTビジョンに基づきあらゆる分野において取組んでいく中で、まず第一段階として、3つの分野を重点的に取組むこととしました。

重点的取組分野

次なるDX ① 行かなくてもいい市役所

ICTの徹底活用により、時間や場所にとらわれない行政手続きを実現します。

次なるDX ② 暮らしのデジタル化

子ども一人ひとりに合わせた教育環境の実現や、平時にも災害時にもICTを活用した環境を整備します。

次なるDX ③ スマート行政経営

Web会議、RPAの活用など、職員の働き方もデジタルに変革することで業務の効率化を進め、市民サービスをさらに向上させます。

情報格差への配慮

DX推進にあたっては、ICTを使いこなすことが困難な方に配慮した施策についても、併せて取組んでいきます。

2 キックオフメッセージ (令和3年6月)

DXを「ICTを活用し、市民の皆さまの生活の質 (QoL:クオリティ・オブ・ライフ) の向上をめざして、行政サービスの提供方法を抜本的に変えること」と捉え、**豊かさや幸せを実感できる心地いいまちの実現に向け、「DXする。」**をキーワードに動き出します!!

「DXする。」とは

全職員がDXマインドを胸に…

DXマインドとは、「今までこうだったから」や、「今のルールではこうだから」ではなく、「どうなれば心地いいか」の発想を持つことであり、

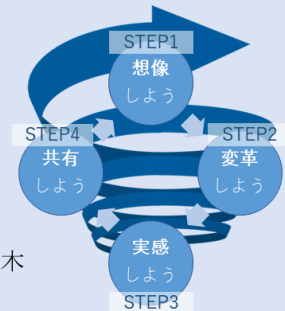
実践への4ステップに挑む!!

徹底的な市民目線のもと「ラストワンマイルまで最適化」のための抜本的な変革を4ステップで実践。

STEP1 自分たちの仕事の理想的な姿を想像する
STEP2 自分たちで業務の変革に取り組む
STEP3 「DXする。」ことの効果を実感する
STEP4 DXの成果を共有する

一つの業務から大きな事業へ
一人から係へ、課から部へ
実践への4ステップは規模も範囲も拡大しながらスパイラル!

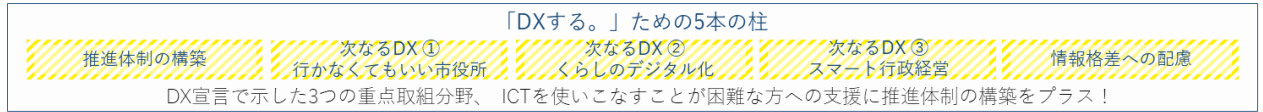
4ステップのスパイラルは受け継がれ、「DXする。」ことは次なる茨木をめざす本市のDNAとなっていくます!



3 DX推進ロードマップ - StartUp! Edition - (令和3年7月策定、令和5年6月更新)

DX宣言で示した「3つの重点取組分野」、「ICTを使いこなすことが困難な方への支援」及び「推進体制の構築」を「DXする。」ための5本の柱とし、重点的に取り組む施策をスタートアップと位置づけ、全庁横断的に取り組むものと各所属が次々と変革に取り組んでいくものを明確にしました。

「DXする。」ための5本の柱と17のスタートアップ



5本の柱を《17のスタートアップ》で具体化！



8つの“全庁横断型スタートアップ”
全庁横断的に取り組むため
DX推進チームが先頭を立て引張っていくもの

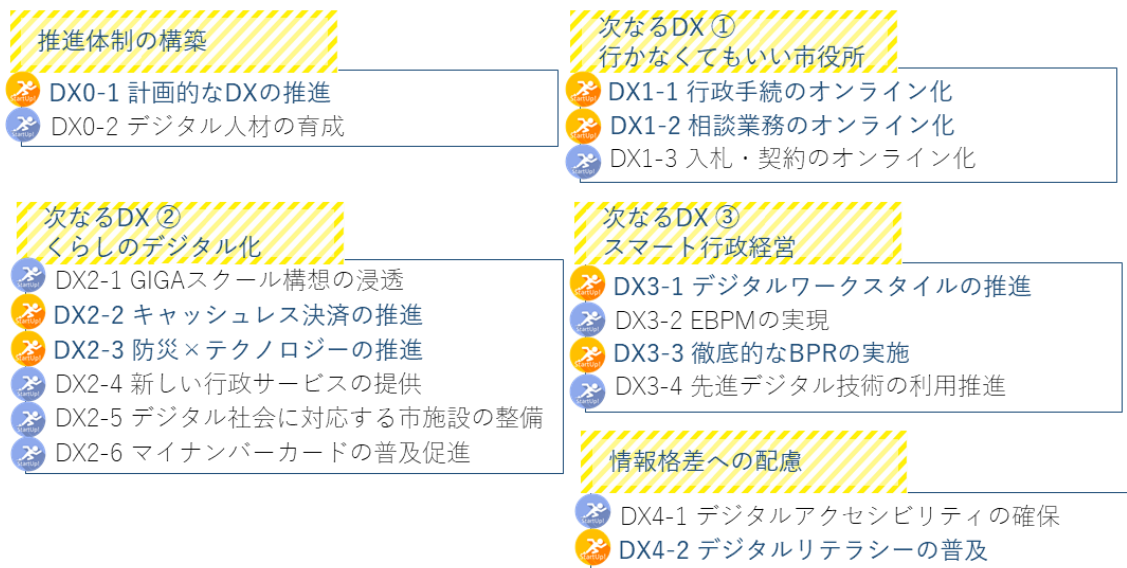
マイルストーンを具体的に提示
既存の取組内容を精査して着実に実施
目標達成のための計画・実施を！



9つの“各課推進型スタートアップ”
各所属が創意工夫を凝らして「DXする。」ことで
どんどんと新たな変革を産み出していくもの

施策の概要のみを提示
各所属でDXマインドを胸に「DXする。」
市民目線での変革のための取組立案を！

5本の柱を8つの“全庁横断型スタートアップ”と9つの“各課推進型スタートアップ”で具体化します。DX宣言後から着実にDXがすすんでおり、新たな取組についても、「DXする。」ことができるものから実現に向けてすすめていきます。



ロードマップは、今後、アクションプランの策定とともに詳細化していきます。